

# 星を見る会

ねん がつ にち きんようび  
2017年1月13日(金曜日)

きんせい ふゆ ほし み  
「金星と冬の星を見よう」

かん い いっしゅうかん ひじょう おお かんぱ にほんれつとう おお ひ こ ひ つづ  
寒の入りから一週間…非常に大きな寒波が日本列島を覆い、冷え込む日が続いています  
ね。寒い中、星を見るのは億劫かもしれませんが、冬は肉眼で最も美しく星が見える季節  
です。暖かい恰好をして、ぜひ夜空を見上げてみてください。

さて、これから2月下旬に向けて、西の空でくじら座の変光星ミラが明るくなりつつあ  
ります。秋のプラネタリウムでもご案内しましたが、ミラはおよそ330日の周期で明るさ  
を約9等から3等まで変える星です。暗いときは肉眼で見ることができませんが、明るい  
ときは街中でも見られます。そして最も明るくなるとされているのが2月25日なのです。“不  
思議な星”と名づけられたミラ…この冬、その赤い光を夕方の空でさがしてみませんか？



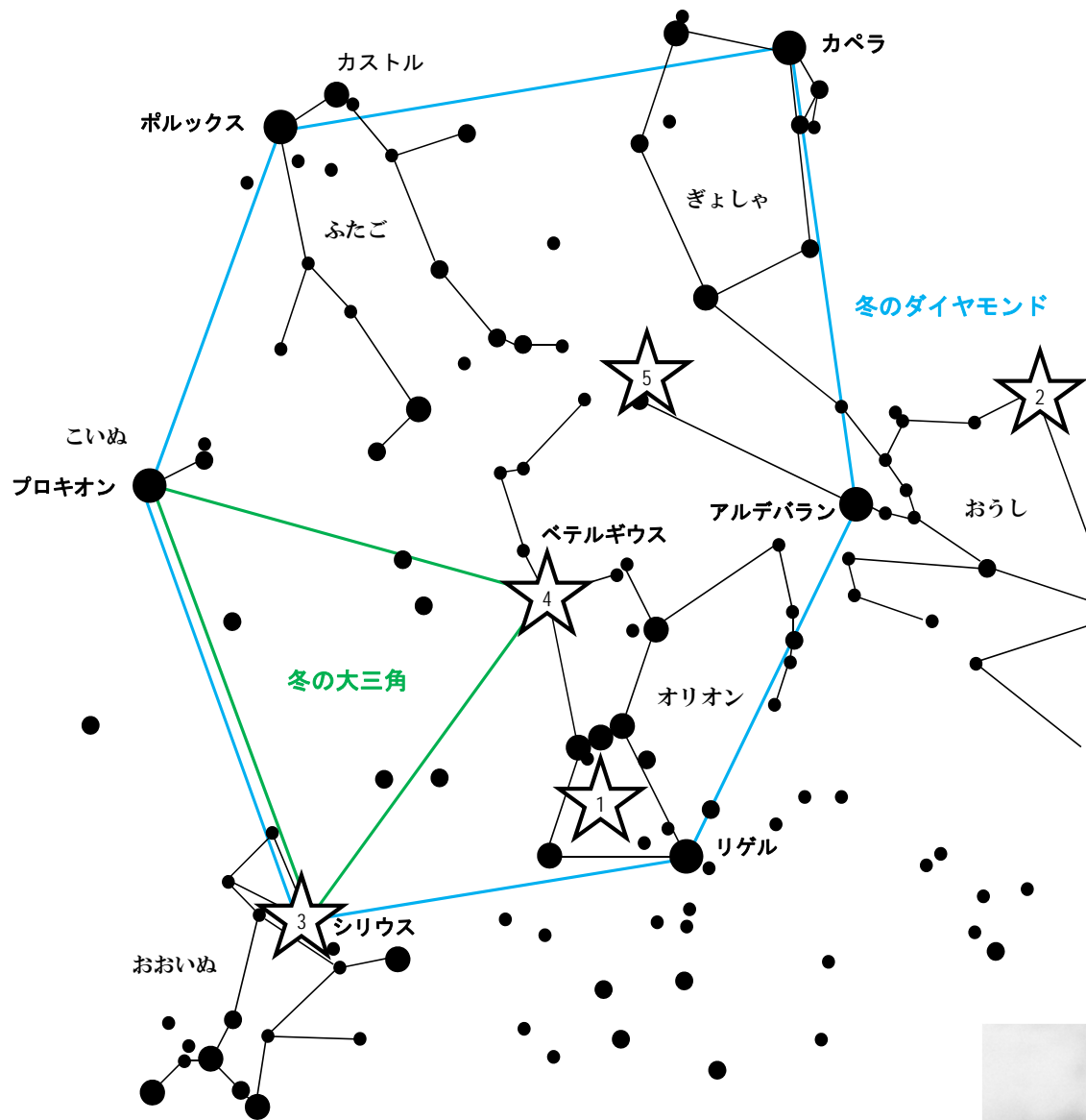
2017年2月25日 19時の南～西にかけての空

## ☆星空の地図：星図の見かた☆

星図は、あかるい星は大きく、くらい星は小さく書いてあります。東をむいて立つときは、図の「東」を下に、西をむいて立つときは「西」を下にしてもちましよう。星図の縁のまるい線が地平線、まるのまん中が頭の真上(天頂)です。

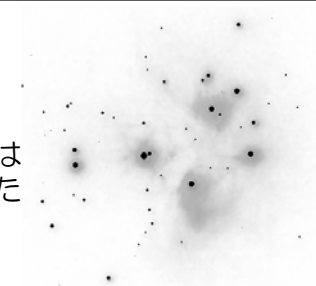
# 冬の夜空で星の一生をたどる☆

冬の星座はただ眺めるだけでも美しいですが…今夜はちょっと視点を変えて見てみましょう。星の一生…生まれてから死ぬまでをたどってみるのです。



## ☆<sup>2</sup> すばる

星は集団で誕生するため、若い恒星たちはこのような星団・散開星団をつくる。星たちはやがては散り散りに。



## ☆<sup>4</sup> ベテルギウス

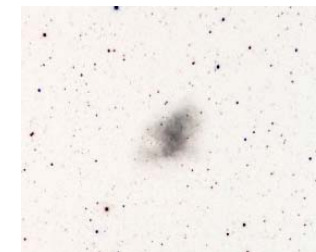
星は年を取ると大きく膨らんだ赤い赤色巨星になる。ベテルギウスは今にも死にそうだと騒がれたことがあったが、それが明日なのか1万年後なのかはわからない。

すばる

## ☆<sup>5</sup> かに星雲

重たい星は最期に超新星爆発と呼ばれる大爆発を起こし、自らを宇宙空間にばらまいて死んでいく。その残骸がかに星雲だ。

かに星雲



望遠鏡で満ち欠けをして見える金星。今日はほとんど半月状に見えますが、これからどんどん細く大きくなっていきます。

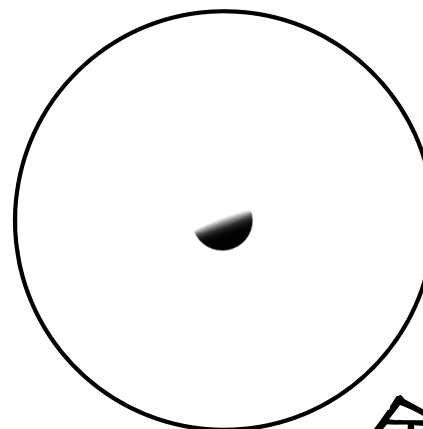
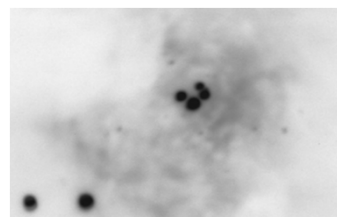
## ☆<sup>3</sup> シリウス

太陽を除いて、全天で最も明るい恒星。一人前の星である主系列星と、軽い星が最期を迎えた後の姿である白色矮星のペア。

## ☆<sup>1</sup> オリオン大星雲

星の材料となるガスが集まっている散光星雲。星が生まれつつある現場で、中心部分にはトラペジウムと呼ばれる生まれたばかりの4つの星たちがある。

トラペジウム

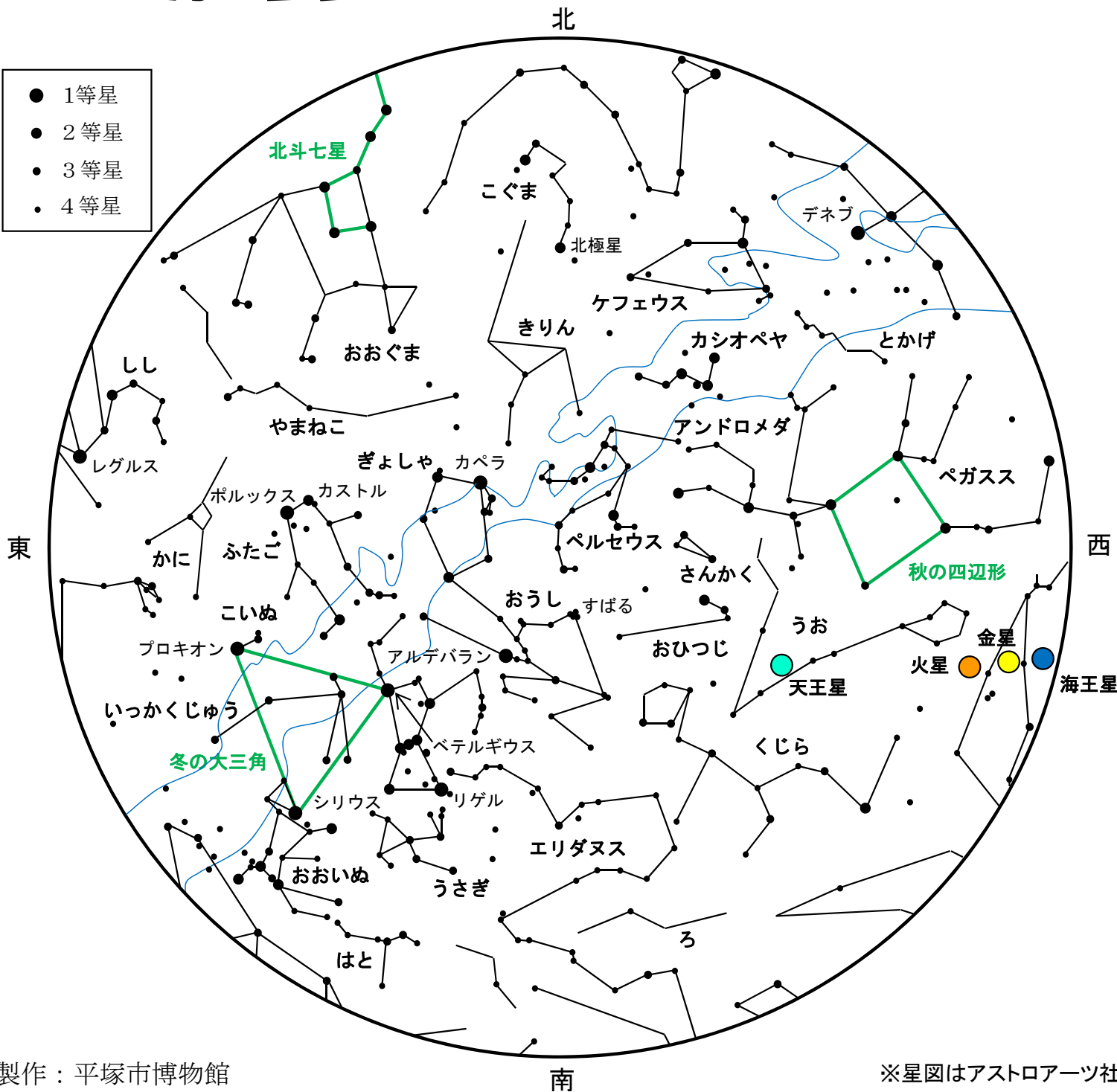


金星☆

# ☆☆1月の星空☆☆

○●1月の月・惑星●○

- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星



- 月: ● 上弦 → 6日(金)
- 満月 → 12日(木)
- 下弦 → 20日(金)
- 新月 → 28日(土)

## 惑星

水星: 中～下旬、明け方の東の空  
低く見えます。

金星: 夕方の西の空に見えます。

## 観望好機

火星: 夕方の西の空に見えます。

木星: 夜半前から東の空に見えま  
す。

土星: 明け方の東の空に見えます。

天王星: 夜半前まで南西の空に見  
えます。肉眼ではほとんど  
見えません。

海王星: 夕方、西の空に見えます。  
肉眼では見えません。

この星図は、  
1月 1日頃 21時  
1月 15日頃 20時  
1月 30日頃 19時  
の星空を示しています。

惑星は15日20時頃の位置です。